

## 9月の防災週間にあわせて独自アンケート調査を実施

### 【自然災害リスクに関する意識調査】

### ハザードマップの利活用や日ごろの備えに関する実態について

### ～防災士より事前準備や地図の活用方法でおさえておくべきポイントを解説！～

株式会社ゼンリンは、9月1日の「防災の日」に際し、全国<sup>※1</sup>の男女20代～70代を対象に、「自然災害リスクに関する意識調査」を実施しました。当社は、住民のみなさまの安全・安心な暮らしに貢献すべく、地図情報を活用した防災・減災<sup>※2</sup>活動の啓発を行っています。2021年5月には、内閣府より発表された「避難情報に関するガイドライン」が一部改定され、自然災害に対する対応状況は年々変化しています。防災・減災に役立つツールとしてハザードマップは有効なツールのひとつです。今回の調査では、ハザードマップを実際にどのくらいの人が活用できているのかなど、改めて防災・減災を意識するきっかけになる情報をお届けします。

※1：調査実施期間が2023年7月豪雨被害と重なった秋田県は調査対象外。 ※2：防災とは、災害被害を「ゼロ」に近づける備え。減災は、災害被害を最小限に抑える備えのこと。

## 1. 調査サマリ

- 自宅周辺における自然災害リスクの関心度には地域差が見られ、関心度が最も高いのは河川氾濫
- ハザードマップを見て自然災害リスクを把握している人は約4割
- 自宅周辺の地図をいつでも使えるように準備している人は約2割

## 2. 調査結果

### ■ 自宅周辺における自然災害リスクの関心度には地域差が見られ、関心度が最も高いのは河川氾濫

#### Q. 自宅周辺で気になる自然災害リスク

都道府県別の第1位と地域別特徴を地図化

複数回答可/n=19,054(対象者全員)

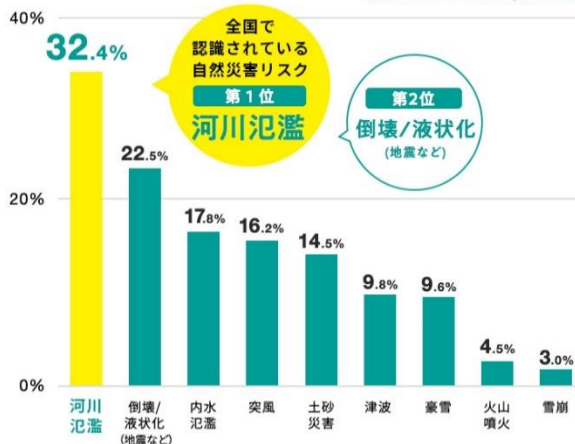


※気になる回答された自然災害リスクについて、都道府県別に最も多かった回答で塗り分けています。  
※秋田県は本調査対象に含まれていません。

自宅周辺における自然災害リスクの関心度は、北海道から北陸の日本海側のエリアでは「豪雪」、茨城県では「突風」、長崎県では「土砂災害」の関心が高く、地域差が見られました。また、全国的に関心が一番高かったのは、河川氾濫（32.4%）でした。

#### Q. 自宅周辺で気になる自然災害リスク

複数回答可/n=19,054(対象者全員)



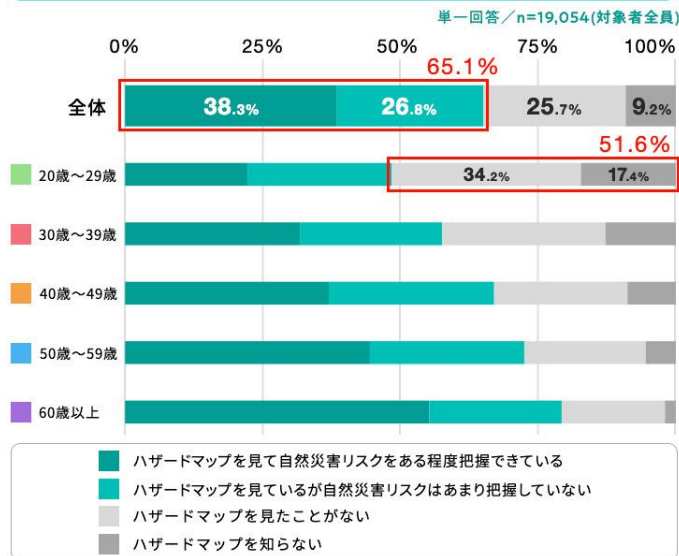
自宅周辺の災害リスクを把握するには、ハザードマップは有効なツールです。  
 実際のハザードマップの利用実態について調査を実施しました。



## ■ ハザードマップを見て自然災害リスクを把握している人は約 4 割

ハザードマップを見たことがある人<sup>※3</sup>は、65.1%。ハザードマップを見て自宅周辺の自然災害リスクをある程度把握できている人は、38.3%という結果に。年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向にあるという結果ができました。一方で、20代は、ハザードマップを見たことがない人・知らない人の合計が51.6%存在し、約5人に1人(17.4%)は、「ハザードマップを知らない」という回答となり、認知度が低いことがわかりました。

### Q. ハザードマップによる自宅周辺の自然災害リスク確認経験



※「その他」はグラフに含まれていません。

#### このグラフから分かること



**発見** ハザードマップによる自然災害リスクの確認経験には年代の差がみられる



高年層

ハザードマップの利用と自然災害リスクの把握は高年層ほど高い。



若年層

20代の約5人に1人は「ハザードマップを知らない」

※3：ハザードマップを見たことがある人は、「ハザードマップを見て自然災害リスクをある程度把握できている」「ハザードマップを見ているが自然災害リスクはあまり把握していない」の合計 (%)

ハザードマップを見て平時の際も役に立っているという声もある一方で、ハザードマップから災害の危険度を読み取る難しさなど、ハザードマップの理解にも課題があることがわかりました。

## ハザードマップ 便利? 不便? みんなの声

### 「役立った!」



賃貸契約の際、エリアごとのリスクを知った上で家選びが出来たので、役に立ちました!  
 男性/30歳～39歳/兵庫県



職場近くのマップを見て多少は備えになると感じた。逃げ場を確認するきっかけになった!  
 女性/60歳以上/神奈川県



自宅の浸水危険度を知り、大雨時に河川水位情報をネットでチェックする習慣がついた!  
 女性/60歳以上/神奈川県

### 不便だった…?



特定の災害リスクが高い理由まではマップで分からず、現地を見に行く必要があった。  
 女性/50歳～59歳/東京都



マップを見た時には分かったつもりでいたが、しばらくすると忘れてしまっている。  
 男性/40歳～49歳/東京都



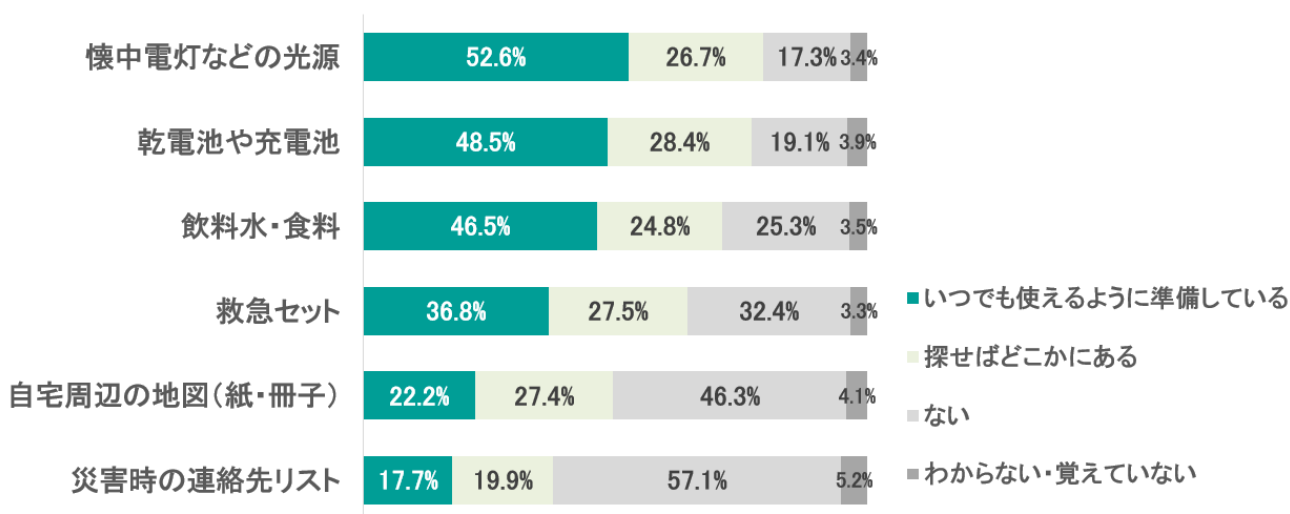
リアルな想像がしづらく、結局きちんとリスクを理解できていないのかわからない。  
 女性/30歳～39歳/奈良県

Q.ハザードマップが役立った経験や不便に感じた経験(フリーアンサー) n=1,434【対象者のうち回答は任意】

## ■ 自宅周辺の地図をいつでも使えるように準備している人は約 2 割

### Q. 災害時のために、あなた自身や家族で備えているもの

各項目単一回答 / n=1,434 (本調査 対象者全員)



備蓄品に関しては、懐中電灯などの光源、飲料水・食料などをいつでも使えるように準備している人は、約半数近く存在しますが、自宅周辺の地図をいつでも使用できるように準備している人は、22.2%という結果に。いざという時に困らないように、地図を含めた準備を日頃からしておくことも重要です。

### 3. 調査まとめ

日本は、地質、気象など自然災害の条件から台風や、豪雨、地震などによる災害が発生しやすく、近年、災害が多発・甚大化しており、自宅周辺の災害リスクに関する意識は高くなっています。ハザードマップにより自宅周辺の自然災害リスクを把握している人は多い傾向にはあるものの、ハザードマップの見方やその活用法、防災・減災の準備という点では、不十分であることが見受けられます。

調査結果を踏まえ、次章では、ゼンリンで防災士の資格を持つ社員より、防災・減災に関して役立つ情報や地図の読み方についてポイントを解説します。

#### <調査概要>

- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査機関：ゼンリン調べ（調査ツール Fastask 使用）
- ・実施期間：2023年7月20日～24日
- ・調査対象：全国20代～70代の男女<sup>※4</sup>
- ・サンプル数（有効回答数）：スクリーニング調査 19,054ss 本調査 1,434ss<sup>※5</sup>

※4: 調査実施期間が2023年7月豪雨被害と重なった秋田県は調査対象外。

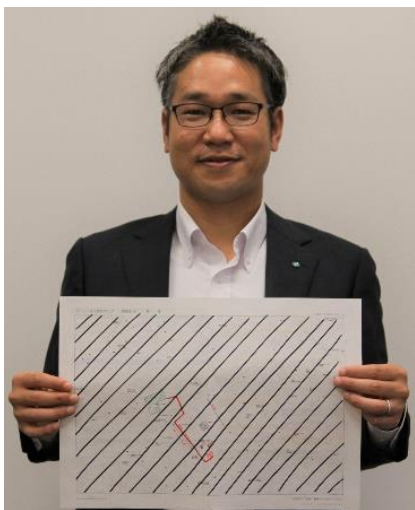
※5: 本調査のサンプル数は、スクリーニング調査回答結果に応じてウェイトバック済み。

■ 詳しい調査内容はこちら：<https://www.zenrin.co.jp/product/article/riskresearch2023/>



## 4. 防災士の資格を持つ当社社員より事前準備や地図の活用方法のポイントを解説！

防災士とは、“自助”、“共助”、“協働”を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証する資格です。そんな防災士の資格を保有する社員がゼンリンには、全国で約 80 名（2022 年 11 月末時点）います。そのうちの一人である、当社社員が防災・減災に役立つ情報を解説します。



防災士の資格を持つ社員  
ICT 事業本部 ICT 公共企画部  
課長 浅野 大輔

### ◇ 防災・減災の事前準備に必要なこと、実際に行うべき備えとは？

災害時にスムーズに初動対応ができるように、平時から備えておくことが何よりも大事になってきます。私には、子どもが 2 人おりますが、災害時にそばに居て助けてあげることができるとは限りません。家族の命を守るためにも、災害時の避難行動や初動対応は、「事前に」子どもと一緒に確認し、**家族のルールを決めておく**ことが大切であると思っています。そのためには、下記 3 点を事前に行うことが防災・減災につながると考えます。

#### ■ ポイント

- ① **地図で自宅周辺の状況を把握する**
- ② **危険箇所を実際に目で確認する**
- ③ **身近な人や近隣の人と日頃からコミュニケーションをとる**

### ◇ 防災・減災における実際の取り組み

#### ➢ **自宅周辺を家族でまち歩き。オリジナルの防災マップを活用**

私は、**自宅周辺の状況を把握するために**当社が提供しているオリジナル地図作成が可能な「ゼンリン自主防災マップ」を活用しながら、自宅周辺を実際に家族とまち歩きをして、避難所までの道のりに**危険箇所がないかを一気に確認**しました。避難所の場所や道のりに関しては、ハザードマップなどを通して事前に把握していたものの、いざ歩いてみると有事の際に危険になる可能性のある箇所を数か所発見しました。

例えば、足元をとられる可能性のある側溝があり、大雨の際は滑ってしまうかもしれない、ふたが外れてしまうかもしれないなど、子どもたちに危険であると伝えることができました。大人と子どもでは知識や経験に差があります。**大人であれば危険とわかることでも、子どもは平時の状態しか知らず、事前に危険であることを実際に目視しながら教えることができた**ことは、子どもに防災意識を持たせる良い機会になりました。



▲自治体のハザードマップを確認しながら自主防災マップで避難所の場所などを確認



▲自主防災マップを持って実際に避難所までまち歩きをし、危険箇所を把握



▲実際にまち歩きをした結果を自主防災マップに記載。危険箇所を避けた避難所までのルートを話し合う

### ➤ 持ち出し品/備蓄品を揃える。定期的な見直しまでがセット

持ち出し品/備蓄品の備えをしている人は増えてきていると思いますが、準備をして満足し、定期的な見直しを行っていないケースは多いと思います。いざという時に、食料品の賞味期限が切れていた、子どもの服やおむつのサイズが合わない、など困らないように定期的な見直しをしておきましょう。

私自身も定期的な見直しを行うように心がけています。また、**持ち出し品は、すぐに持ち歩くことができるように必需品だけをまとめてリュックサックに、長期間の在宅避難にも備えて備蓄品もボックスに準備しています。**

さらに、地図も定期的な見直しが必要です。住んでいるまちは日々変化するので、定期的に最新の状態にしておきましょう。



▲ 備蓄用の地図の見直し



▲ 持ち運び用のリュックサック



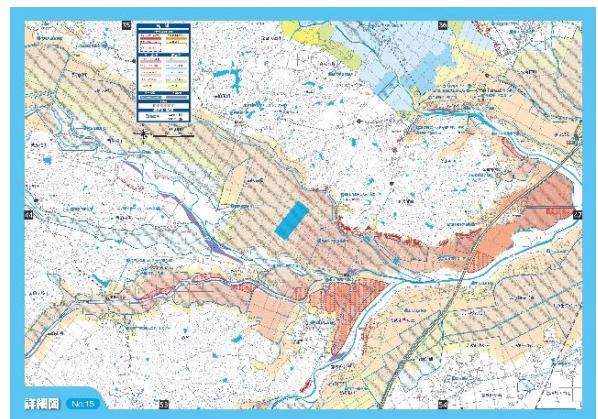
▲ 長期間の在宅避難に備えた備蓄品ボックス

### ◇ ここだけはおさえて欲しい。ハザードマップで確認しておくべきポイントを解説

自宅周辺の災害リスクを事前に把握しておくことで、災害時に難を逃れることができる可能性は高くなります。その把握に有効なツールが、自治体が提供しているハザードマップです。自治体によっては、役所の窓口に行くともうることができ、ホームページにも公開されています。ハザードマップにはさまざまな情報が掲載されていますが、まずは、下記3点を確認するようにしましょう。

#### ■ ポイント

- ① **危険な箇所**
- ② **安全な場所**
- ③ **避難所までの道順**



▲ 自治体提供のハザードマップイメージ

さらに、ハザードマップで避難する場所を確認したら、その情報をもとにまちを実際に歩くことを推奨します。また、我が家では、まち歩きをして作成したオリジナルの防災地図を家族がいつでも見ることができるように冷蔵庫に貼り、家族全員が、日ごろから防災の意識を持つようにしています。



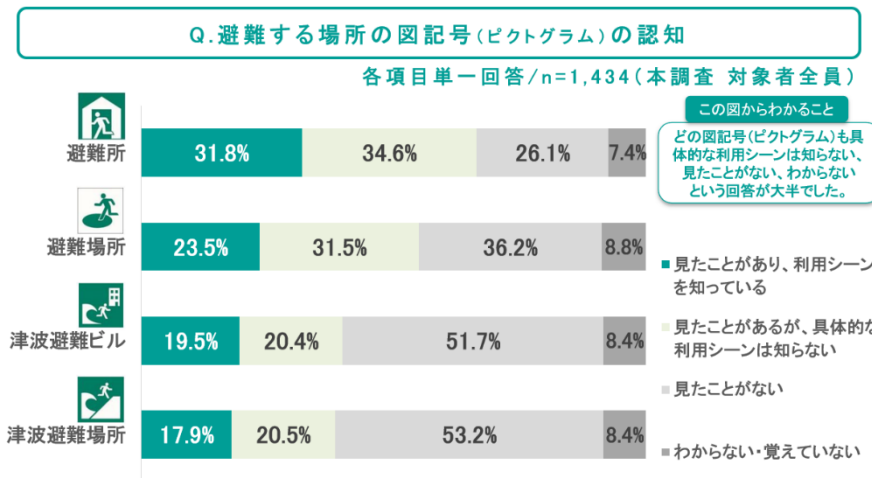
▲ 地図はゼンリン自主防災マップイメージ



➤ **避難する場所は災害別に異なるのでチェックを！**

避難場所等は災害別に、災害対策基本法により、設定されています。

避難する場所には、避難所、避難場所、津波避難ビル、津波避難場所などがあり、それぞれ図記号（ピクトグラム）があります。図記号（ピクトグラム）は、ハザードマップに記載されており、避難誘導標識としても設置されていますので、事前に確認するようにしましょう。



▲避難場所の表示方法イメージ「避難場所+災害種別を併記」※6

※6：内閣府 HP：避難場所等の図記号の標準化の取組「JIS Z 9098 データ集（Word 形式）」より引用。

**5. 当社の防災・減災の主な取り組み**

当社は、東日本大震災をきっかけに**公助、共助、自助**の3つを支援するソリューション、商品・サービスの提供を行っています。

■ **公助**

<災害時支援協定>

全国 737 の自治体（2023 年 7 月末時点）と「災害時支援協定」を締結しており、備蓄用の住宅地図帳や広域図を提供することで災害発生時の迅速な初動対応につなげ、地域の防災・減災を支援しています。当協定による災害時の地図提供や復興支援、地域の防災教育の取り組みなどにより、防災体制の整備に貢献したとして、当社は、2019 年 9 月に内閣府主催の「令和元年 防災功労者防災大臣表彰」を受賞しました。

■ **共助・自助**

当社は、商品・サービスを活用しながら、総合防災イベントの「ぼうさいこくたい」などの出展や、親子向けワークショップを通じて、防災・減災について啓発活動を行っています。



▲親子向けワークショップで、子どもたちにプログラミング教材「まなっぷ」を活用しながら会場周辺の危険箇所などを一緒にチェックしました。

<参考リンク>

・災害時支援協定：

[https://www.zenrin.co.jp/disaster\\_support/](https://www.zenrin.co.jp/disaster_support/)

・ゼンリン自主防災マップ：

<https://www.zenrin.co.jp/product/category/planningmap/autonomy-disastermap/>

・まなっぷ：地図を活用したプログラミング教材で、お子様がパズル感覚で避難マップをつくることができ、防災教育にもご利用いただけます。

<https://www.zenrin.co.jp/product/category/education/>